

第2回スポーツによる地域活性化懇話会 概要

1. 日時

令和2年4月16日（木曜日）午前10時30分～午前11時30分

2. 場所

山梨県庁2階特別会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者

○ 構成員

高橋義雄、大浦征也、中嶋文彦、古屋光司、山下修作、吉永憲

※座長以外は五十音順、敬称略

○ 山梨県

知事、スポーツ振興局長

4. 会議概要

- ・ 昨年、日本で開催されたラグビーワールドカップにおいては、観戦者の一人あたりの旅行支出も非常に大きかった。個人支出がどのくらいなのかという点もスポーツツーリズムのイベントの場合は、大きな焦点になってくるのではないか。
- ・ 地域でスポーツツーリズムを推進する核となる組織として、スポーツコミッションを設立することが重要。コミッションには、第三セクターから民間までいろいろな形態がある。
- ・ 宿泊、モビリティ、飲食、ナイトエコノミーに加えて決済の簡便化といった環境が整ってくると、山梨のポテンシャルを活かしたスポーツツーリズムが進めていけるだろう。
- ・ 観光先で一般の方との交流の機会が生まれると、その場所は観光客にとって特別な場所になり、また訪れてみたいと感じたり、その土地の名産をネットで買ってみたい、友人に勧めてみたくなる。地元のプロスポーツチームがあると、交流の機会の創出などに貢献できるのではないか。
- ・ 何かのスポーツを誘致する際には、その競技特性や世代ということにもこだわると、宿泊や幅広い世代を呼ぶことにも繋がるのではないか。
- ・ 教育と結びついたスポーツが多くあり、こうしたコンテンツをいかに上手く使うのかがポイントになる。
- ・ 学生スポーツに関しては、近年、注目されてきており、地元の大会にも目を向けるような流れができているとの話もある。これをある程度誘客に使おうという視点を持って取り組めば、ポテンシャルはあるのではないか。